

芸術科「漢字仮名交じりの書」 シラバス	単位数	2単位	学年・学級	第1学年芸術教養コース 書道選択者
------------------------	-----	-----	-------	----------------------

1 学習の到達目標等

学習到達目標	<p>1 漢字仮名交じりの表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てる。</p> <p>2 それと同時に書を楽しむ態度を通して感性を豊かにし、様々な場面に対応する書写能力を高める。</p> <p>3 1と2の学習を通して自己を主体的に表現し、個性的・創造的な表現の能力と書的美しさを感じ取る鑑賞の基礎的な能力を伸ばしていく。</p>
使用教科書・副教材等	<p>書Ⅰ（教育出版）</p> <p>視聴覚教材 書道道具一式</p>

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	配当	単元	教材	指導内容	
1 学 期	4	2	オリエンテーション 墨色の変化	用具・用筆について	濃墨や淡墨の作品を鑑賞し、墨色の変化による印象の違いを理解し、実際に濃墨・淡墨を作って書いてみる。	
				現代作家の作品		
	5	4	仮名の変遷 仮名の基本	仮名の成立と変遷 奈良～現代までの作品	日本固有の仮名の歴史を学習し、文化的背景と種類について理解する。	
				仮名の書	平仮名 変体仮名 連綿	用具用材に扱い方を理解し、基本となる仮名の用筆法を理解する。
					仮名の名筆 (奈良～平安時代)	それぞれの古筆の文化的背景や内容、特徴等を理解する。
	6	4	仮名の名筆 (近代～現代)	仮名の名筆 (近代～現代)	個展や展覧会や図録等を鑑賞してさまざまな構成法があることを理解し、参考にしながら構成法を意識しながら書く。	
				1学期のまとめ	料紙に書く	色紙や短冊、懐紙等多様な表現様式を理解する。
2 学 期	9	8	平仮名の変化 漢字との調和	平仮名の字母	平仮名の基の漢字を学習する。 字母を使い漢字を平仮名と調和するように変化させる。	
			作品の構成の変化	寸松庵色紙 升色紙 継色紙 等	古筆を鑑賞してさまざまな構成法があることを理解し、字形だけではなく構成法を意識しながら書く。	

	11	8	創作 短歌・俳句を中心に	現代作家の作品	短い俳句をこれまで学習してきた事を思い出し、文字の変化を工夫しながら個性を出して創作する。
	12	4	2学期のまとめ	料紙に書く	2学期学習した構成法などを意識しながら料紙にまとめる。
3 学 期	1	6	創作 詩文を中心に	詩や格言 童謡や邦楽の歌詞等	長めの文字数の作品を構成に工夫しながら創作する。
	2	10	創作 自詠の詩を中心に	字詠の詩	各自、自分で作った言葉や詩を使い、文字・構成・表現を工夫しながら創作する。
	3				
<b>【課題・提出物等】</b> 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録する。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルする。 3 单元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い自己評価する。 4 課題に応じて作品を提出する。創作作品は数時間をかけて完成させます。					
<b>【評価方法】</b> 1 提出作品、「学習記録」の記録状況、「学習のまとめ」の内容、用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で50%、「学習記録」と「学習のまとめ」で15%、期末考査20%、学習活動への参加の態度で15%の配分で行います。 3 提出作品については漢字仮名交じりの書において、漢字と仮名の調和を考え、意図した表現に近づくことが出来たかが評価の基準となります。					

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。</li> <li>・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といった様々な要素について考え分析する姿勢が大切です。</li> <li>・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。そのために「学習記録」はていねいに書きましょう。</li> <li>・創作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具などを積極的に選択していきましょう。</li> </ul>
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。</li> <li>・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。</li> <li>・作品ファイルはきちんと整理しておきましょう。</li> </ul>